



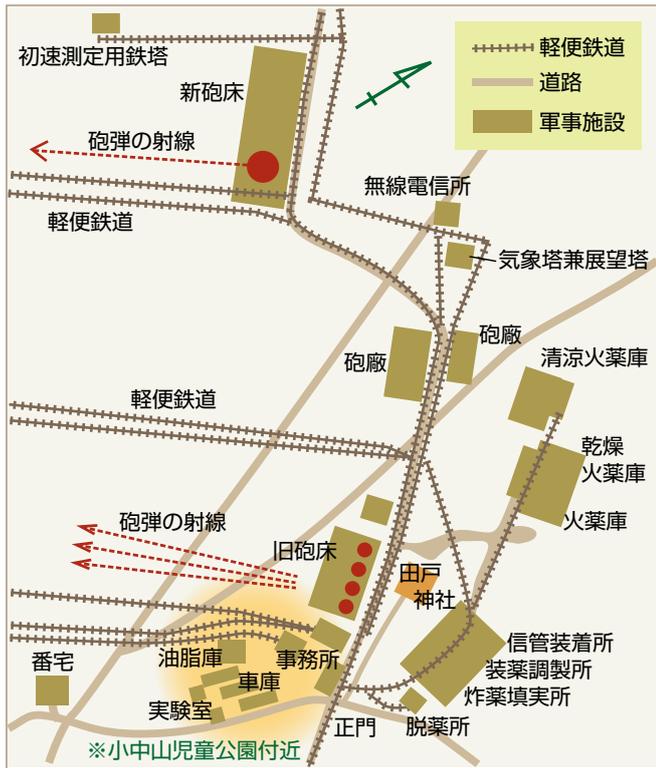
明治

戦争遺跡

は渥美半島に数多く

ありますが、建物が残っているものは少なく、当時を知る貴重な歴史資料となっています。

その中で、最も規模が大きなものとしてあげられるのは、伊良湖射場跡(小中山町)で、旧日本陸軍が火力兵器を開発するための中心的な施設でした。



◆伊良湖射場中枢部施設の配置略図(昭和初期)

軽便鉄道が小中山港まで至り、陸揚げされた大砲や物資などの輸送に使われていました。(略図は、伊藤厚史作図「愛知県史研究第4号」掲載図をもとに作成)

実射試験の伊良湖射場

伊良湖射場は、火砲の性能向上に伴い、明治34年(1901)、旧日本陸軍の大砲の実射試験場として設置された施設です。正式名称は「陸軍技術研究所伊良湖試験場」で、大砲、弾薬の研究や効力実験、弾道研究、採用検査などが行われていました。陸軍が使用する大砲や弾薬のほとんどが、伊良湖試験場で試験審査を受け、戦地へ配備されていたのです。

小中山町の田戸神社付近を中心に造られたこの施設。なぜこの場所が選ばれたのでしょうか。考えられている理由は3つあります。

- 大砲の射線10kmが確保できたこと
- 地形が平らで、弾が飛んでいく様子がよく見えたこと
- 家が少なく用地取得がしやすかったこと

明治34年(1901)、小中山(西山)地区の一部が射場用地となり、明治38年(1905)には用地拡大のため西山(伊良湖地区)が軍用地として買収されました。

今でも残る射場施設

伊良湖射場跡には、気象塔兼展望塔(通称・六階建)や無線電信所、油脂庫、警戒哨舎などの戦争遺跡があり、昔の面影を見ることが出来ます。現在では、個人が所有する農機具庫などとして残されています。



●警戒哨舎と境界石柱(移設)



◆油脂庫

高さ約3.7mのコンクリート造平屋建の建造物で、射場の事務所地帯にあり、油などが保管されていました。



◆無線電信所

高さ約7mのコンクリート造二階建の建造物で、点在する観測所や監視所との連絡を行っていました。



◆気象塔兼展望塔(写真右)

高さ約19mのコンクリート造六階建の建造物で、大砲の弾道や風速・風向などの観測を行っていました。